

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	115人	算数	115人	理科	115人
第5学年	国語	112人	算数	112人	理科	112人

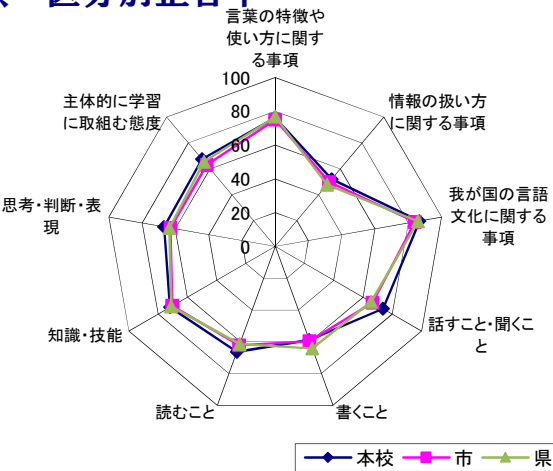
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.2	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	52.0	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	86.8	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	73.7	66.5	65.5
	書くこと	59.0	59.6	64.2
	読むこと	66.4	62.2	61.5
観点	知識・技能	71.8	70.2	71.1
	思考・判断・表現	66.8	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	67.4	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

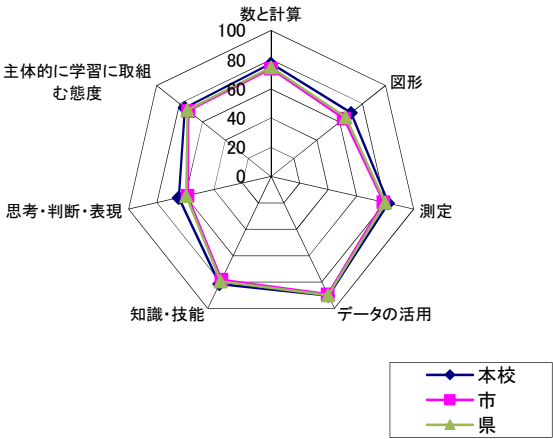
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読みは特によくできており、90%を超える正答率である。日頃の音読や読書の成果が表れている。 ○主語と述語や語彙に関する問題では、県の平均とほぼ同じである。 ●漢字の書きは、県や市の平均をやや下回った。 ●ローマ字や文章の2段落構成などの理解については県の平均を下回る結果となり課題が見られる。	・日頃の漢字の反復練習をしっかりとし、漢字オリンピックや50問テストなども活用し、しっかりと定着できるようにする。 ・ローマ字については、タブレットでのタイピング練習も活用しながら、ローマ字の読み書きがしっかりとできるようにしていく。 ・宿題等で言葉の基礎・基本の問題練習などに取り組んだり、日記を書かせたりして語彙の習得や構成を考えた作文が書けるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県も平均をやや上回っている。 ○中心となる語や文を見つけて要約する問題では、県の平均を上回っている。 ●国語辞典の使い方に関する問題では、県の平均とほぼ同じではあるが、正答率が50.0%で定着しているとは言い難い。	・日常的に国語辞典を使う場面を意識的に増やし、国語辞典の使い方を定着させるようにしたい。 ・説明文の学習をするときには、引き続き中心となる言葉や文に注目しながら要約するようにしていく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均正答率とほぼ同じである。 ○漢字のへんやつくりに関する問題は、正答率が86.8%と高く、よく理解している。	・新出漢字の学習時に、部首を確認しながらへんやつくりの意味や種類に注目させるようにする。 ・長い間使われれきた故事成語やことわざなどの意味や使い方にふれ、日常生活で積極的に使っていくなどして身に付けさせていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均を上回っている。 ○話し合いの内容を聞き取る問題では、県や市の平均を上回っており、話の中心や話し方の工夫をきちんと捉えることができている。また、相手に伝えるように自分の考えを理由を挙げながら話す問題では、市や県の平均を大きく上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心をとらえる問題では、正答率が43.0%となっており、課題が見られる。	・話したり聞いたりすることを振り返る場を設定し、自分の成果や課題を捉えることができるようにする。また友達と話す練習をする場を設け、聞き手に伝わる話し方を考え実践できるようにしていく。 ・国語の授業で学習してことを実践し、普段から話を聞くときに自分の聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもって聞けるよう、必要なことをメモしたり、質問したりしながら話が聞ける児童の育成に努めたい。
書くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じであるが、県の平均を下回っている。 ●自分の考えを明確にして文章を書くことや指定された長さで書くことは県の平均とほぼ同じかやや下回っている。特に課題となることは、二段落構成で文章を書いたり、自分の考えを支える理由や事例を明確にしながら文章を書くことである。 ●無回答率も21.9%となっており課題である。	・普段から自分の考えを書く活動を意図的に設定し、字数制限なども付けて書く経験を増やしていく。 ・調べ学習等を通して、理由や事例を挙げて書く活動に力を入れていく。 ・日記を書くなど、日常的に自分の考えや気持ちを書く活動を取り入れ、書くことに対する抵抗を無くし、無回答率を減らすようにする。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。 ○物語や説明文の内容を読み取る問題は、どちらも県の平均やや上回っている。 ●物語文の叙述をもとに場面の様子について捉える問題では、県の平均を上回っているものの、正答率が29.8%となっており課題である。	・物語文の学習では、場面の移り変わりと結び付けながら、登場人物の気持ちを考えていくようにしていく。 ・読書活動を充実させ、教科書に出てきた作者の本など、つながりのある本を読み、様々な表現に触れる機会を増やしていく。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.4	73.8	74.8
	図形	70.0	63.7	65.3
	測定	82.3	78.9	80.1
	データの活用	90.4	89.3	90.0
観点	知識・技能	81.5	78.3	79.5
	思考・判断・表現	64.8	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	75.4	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

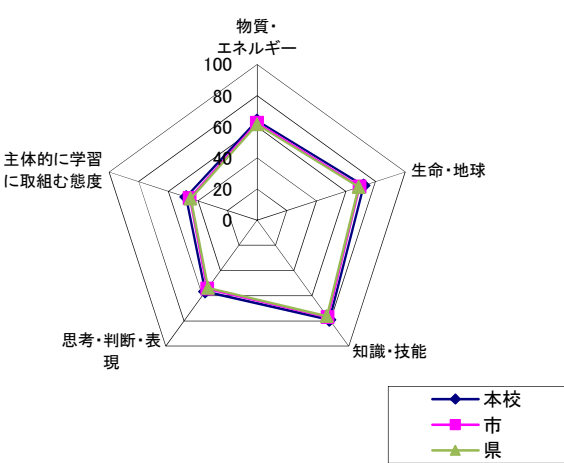
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均よりもやや高く、県の平均とほぼ同じである。 ○「□を使った式」の設問全てで県の平均正答を上回っており、□を用いて問題場面を式に表すことができる。 ●余りを切り上げる処理の説明や暗算の仕方を説明する設問では、無回答の児童が10%以上おり、言葉で表現することに課題がある。	・日々の授業の中で、自分の考えを書く時間をしっかりと取るようにする。考えを言葉で表現することに苦手意識をもっている児童に対しては、ポイントを確認したり穴埋め形式で書く機会を増やしたりすることで、自分の言葉で表現することができるようにする。 ・自分の考えを書くとき、図や式、言葉などを使って表現するよう指導していくことで、それぞれを結び付けて考えることができるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均よりも高く、県の平均をやや上回っている。 ○円の性質や三角形の作図について、県の平均正答率を上回っており、図形の基本的な知識が身についている。 ●二等辺三角形である理由を述べる設問において、正答率14%、無回答率20%から、円の性質と二等辺三角形の定義が結びつかず、言葉で表現することに課題がある。	・新たな図形を学習するときに、それぞれの図形の定義をおさえることで、基礎的な知識の定着を目指す。 ・これまで学習してきた図形の定義や性質を個々として捉えるのではなく、それぞれを関連付けて考えたり、既習事項を生かして新たに考えたりするような応用問題に取り組む機会を増やす。
測定	平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。 ○「長さや道のり」の設問では、県の平均正答率をやや上回っており、「道のり」と「距離」の意味の違いについてよく理解している。 ●身近なものの重さを推察して、適切な単位を使って表す設問では、正答率が70%で、測定領域の中では最も低い正答率であった。	・時間や長さ、重さなどの量感を確実なものにするために、継続的に指導していく。 ・身近なものの重さや長さを推察できるようにするために、その量がどの程度の大きさであるか、およその見当を付ける場面を今後も取り入れていくことで、長さや重さの単位のイメージをもたせ、実感を伴った理解を深められるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均とほぼ同じで、県の平均と同じである。 ○「表とばうグラフ」のすべての設問において、校内正答率は90%を超えており、1めもりの大きさを読み取ったり、問題に応じてグラフのどこに注目すべきかを考えたりできることを示した。	・グラフを読み取るための基本的な力は身につけている。グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを表現する機会を増やし、より理解を深めていく。また、社会科などで棒グラフがある場合には、そこからどんなことが読み取れるのか考えさせるなど、実生活や学習に生かされているという意識をもって学習できるようにする。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.9	62.5	61.5
	生命・地球	71.9	69.2	68.6
観点	知識・技能	79.1	77.2	76.3
	思考・判断・表現	56.8	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	48.0	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○「風やゴムのはたらき」の設問では、風の向きや強さと物の動き方の関係を問う設問では、88%の高い正答率を得ており、基本的な知識が身に付いていると言える。 ●「じしゃくのせいしつ」の設問では、県の平均とほぼ同じ正答率ではあるが、全ての設問において、正答率が50%を下回っており、課題が残る。特に、自由に動けるようにした磁石のN極がどこを指すかという設問では、正答率が35%とであるとともに、無回答率が約15%になっており、磁石の性質の理解に課題が残る。また、方位磁針の針として使えるかどうかを判断して記述する設問では、正答率が25%であり、全ての設問の中で、最も低い正答率であり、知識を生かし根拠をもって判断することに課題があると考えられる。	・実際に児童が具体物に触れ、体験することで学習内容の正しい理解に結びつく結果から考えられるので、今後も体験的な活動を取り入れた授業展開を行っていく必要がある。単に体験をする機会を設けるだけでなく、知識を確認したり、考察をする時間を十分に設ける授業展開を行っていく。 ・「じしゃくのせいしつ」では、じしゃくの性質に関する知識が身に十分に身に付いていない現状である。事象に興味をもてるよう実験やICTを活用し、視覚的な理解にもつながるようにする。 また、推測し判断をする設問では、知識を根拠に結び付けられないことが課題であると考えられる。予想や考察をする際に、なぜそうなるのかということを知識と結び付けながら考えることができるよう学習指導を行うことで思考力の向上に取り組んでいく。
生命・地球	平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。 ○「身近なしぜんのかんさつ」や「植物の育ち方」の設問では、生き物のすみかや植物の体のつくりを問う問題は、市や県の正答率とほぼ同じであるが、90%を超える高い正答率であり、知識が定着している。 ●「太陽と地面のようす」の設問では、温度計の使い方の正答率は85%であるが、日なたと日かげの様子をもとに記述する設問においては、県の正答率を10%近く下回っていると、無回答率も5.3%であり、領域の中で無回答の割合が最も高かった。知識を活用し、自分の言葉で表現することに課題が見られる。 また、影ふみ遊びに関する設問で、影をふまれにくい方法を記述する正答率では、県の正答率よりもやや上回っているが、正答率は53%であり、思考力を問う問題に課題があると考えられる。	・記述をする設問に対する正答率が低いことや無回答率が高いことから、自分の考えを文章で書く機会を設け、表現力の育成を図る授業展開を行う。 ・無回答率が低い背景には、正しい知識が身に付いていないことや、自分の考えを持っていないことが原因として考えられるので、反復学習を取り入れることで学習内容を確実に習得できるように取り組んでいく。 ・また、自分の考えをもてるようにするために、ペアやグループでの話し合い活動を行うことやタブレット機能を活用して自分の考えを共有する場を設け、学び合いが充実した授業展開を行っていく。更に、話し合い活動ではポイントを示すことで根拠をもって自分の意見を考えることができるようにすることで思考力を育み、表現力の向上につなげる。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」、「学校の宿題の量はちょうどいいと思う」、「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定的回答の割合は、どれも約95%近くっており、ほとんどの児童が家庭学習に前向きに取り組むことができている。家庭学習の習慣化のために、本校独自の学校で共通理解を図った家庭学習の手引きを作成し、家庭学習の仕方や課題内容などを分かりやすく提示するなどの工夫をしてきた成果が表れている。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答の割合は、92.9%で県の平均と比べて、11.4ポイント高い。また、「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」の肯定的回答の割合は、86.7%で県の平均より6.2ポイント高い。意欲を高めたり問いをもたせたりするための導入や課題、活動の工夫に取り組んできた成果が表れ、学習に前向きに楽しく取り組むことができている。

○授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」と回答した児童の割合は、92%で県の平均と比べると5ポイント高い。また、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」と回答した児童の割合は、81.4%で県の平均と比べて6.9ポイント高くなっている。宇都宮モデルを意識し、「課題をつかむ」、「活動を振り返る」という学習の流れを確実に行うことができている。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」と回答した児童の割合は、66.4%で県の平均と比べると11.2ポイント高く、一人一台端末を積極的に学習に利用している様子が見られる。平均8割を目指して、ICTの効果的な活用にさらに取り組んでいきたい。

○「1か月に、何さくらい本を読みますか」の質問に対して、5冊以上読むと答えた児童の割合は、56.6%で県の平均と比べて7.3ポイント高い。朝の読書の時間の確保や読み聞かせ活動の推進を実施してきた成果が表れ、多くの本を読む児童が増えてきている。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」と回答した児童の割合は、63.7%で県の平均と比べて8.6ポイント低い。授業で分からないことを聞くことができる時間の確保や雰囲気づくりに努めていく。

●「授業で、自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童の割合は、72.6%で県の平均と比べて10.8ポイント高くなっている。授業中に自分の考えを書く時間を確実に確保し、自分の考えをもたせるための支援を行ってきたが十分ではない。今後は、自分の考えを書くことが難しいと感ずる児童への具体的な助言や書く型の提示などを行っていききたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童の割合は、46%で県の平均と比較すると6.3ポイント低くなっている。自分の考えや意見を発表することに対して消極的な面が見られる。自信をもたせる声掛けや称賛、励ましを行っていききたい。